

会報

2017.09.01
第62号
戦没船を記録する会

目次	
2017年度総会報告 議事録	1
議案書(確定版)	2
ピースあいち展示会出展報告	6
次年度より会費制移行にご理解を	8
「海なお深く」を会員に配布します	8

〒343-0025 埼玉県越谷市大沢 4-15-1-4-207-
 電話・FAX 048-965-6820
 郵便振替 00160-6-719515
 URL <http://www.ric.hi-ho.jp/senbotusen/>
 E-mail senbotu@ric.hi-ho.ne.jp



2017年8月2日、2年ぶりに定期総会を開催しました。事務局より総会を開催しなかったこと、会報が2013年60号以来発行されなかったことなどについて、反省とお詫びの意を込めた報告と提案がなされました。

以下、総会の議事概要と決定内容をご報告いたします。

総会議事録

日時 2017年8月2日 14時～17時
 場所 新橋 生涯学習センター・バルーン
 出席者 理事 栗原、小林、篠原、竹中、新関、吉田
 監事 柿山、河内山
 会員 飯島、片岡、三宮、本望

1. 開 会 小林副会長の司会で開会が宣せられた。
2. 議長選出 吉田副会長を選出した。
3. 定足数確認 栗原事務局長より理事6名、監事2名、会員4名の出席を報告し確認した。
4. 議事

1号 議案 活動報告(議案書参照)

事務局長から、2013年の総会以降会報を発行できずお詫する。2013年の総会では「本会の活動は神戸の資料館完成により終わった」という意見と、「継続して活動すべき」との意見に分かれたが、総会后アンケートなどで会員の意見提出を求めた。活動を継続すべきとの意見が多かった。

そうした中で、外部からの要望もあり展示会は継続してきた。2015年ころから展示会への協力者が増え、対応はしやすくなった。マスコミなどからの戦没船に関する問い合わせも多かった。

本年2月理事会を開催し、総会開催を決めたが遅れがちとなり、6月に拡大事務局会議を開き総会開催日程を8月2日と決め開催にこぎつけた。

現在の連絡がとれる会員数は85名である。などの報告があった。

これに対し、会報を定期的に発行して情報提供しないと活性化しないとの批判があった。

事務局からは、若手に引き継ぎ複数の協力体制がとれるよう早急に整備してもらいたいとの要望が出された。

以上の議論の後1号議案は、絶対多数で決定した。

2号 議案 活動方針(議案書参照)

事務局長より展示会実施は1人では困難であり、協力者が必要であるとの訴えがあった。

資料整理を今年度中をめどに実行すること。海員組合の協力を仰ぐことなどの意見があった。

海員組合が「海なお深く」を全国の中学校に配布するので、学校に鑑賞会や説明会

を呼び掛け、説明や語り部として本会が協力できるよう働きかける提案があった。

又、ホームページの更新、整備を求める意見も出された。

2号議案は、絶対多数で決定した。

3号議案 決算報告及び会計監査報告 (議案書参照)

事務局長から、2013年から会報が出ておらず、2013年分から決算報告を掲載したが2013年と2014年は監査は受けている。2015年は今回監査した。

費用の大きなものは展示会の遠距離旅費で、旅費支給基準を整備・明確化する必要がある、との説明があった。旅費・交通費は明確化すべきだが、基本的には参加を特に要請された場合を除き自己負担である、との意見があった。

続いて河内山監事より会計監査報告があった。

3号議案は、絶対多数で決定した。

4号 議案 会則改正 (議案書参照)

年会費 3000 円の設定についての提案であるが、これまで会報も出さず情報提供していないのに、いきなり会費を請求したのでは理解が得られない、十分周知期間を置き、実施は来年度からとすべきだとの意見が多数を占め、会費は 3000 円とするが、実施は来年度からと原案を修正した。会費設定に先立ち、会報送付時にレターを添え説明すること。また会員の実態把握を行うべきだ、との意見が出された。

会費設定に関連して、第 15 条の「会員の任意拠出金、その他の寄付金、事業収入」は「会費、寄付金、事業収入」と改める修正意見があり、修正することとした。

4号議案は修正の上、絶対多数で決定した。

5号 議案 役員改選 (議案書参照)

改選期の 2015 年に総会が行われておらず、今回改めて、役員を選出することとした。任期は 2 年とすることを決定した。

現役員は全員立候補を依頼したが、河内山監事は立候補を辞退した。また、逝去された理事の補充の立候補を求めた。その結果以下の立候補があった。

立候補者

理事 飯島雄二、上村 徹、栗原三郎、
小林三郎、三宮克己、篠原国雄、
竹中正陽、新関昌利、本望隆司、
山口喜春、吉田敏長

監事 柿山 朗、片岡和夫
全員異議なく選任された。

6. 会長・副会長の選任

総会を中断し、理事会を開催して新任理事により次の会長・副会長が互選された。

会 長 新関昌利

副会長 小林三郎、吉田敏長

総会を再開し、会長と副会長選出結果が報告承認された。

新関新会長から閉会の挨拶があり、2017年度総会は閉会した。

議案書 (確定版)

第1号議案 活動報告 2013年度～

	日 付	活動項目	活動内容・場所等	種類
2013年 (20年度)	4月25日	理事会	勤労者福祉会館 10名	会議
	5月15日	会報 60号発行	103部発送	会報
	5月23日	2013年度総会	港区立勤労福祉会館	総会
	5月31日 ～2日	平和展のための戦争展 in 横浜	横浜市	展示
	6月1日 ～2日	東京海洋大学学園祭	第53回海王祭	展示
	6月	焼津における平和のための戦争展	焼津市ふれあいホール	展示
	7月26日 ～28日	平和のための埼玉の戦争展	さいたま市	展示

	日 付	活動項目	活動内容・場所等	種類
2013年 (20年度)	11月	北海道新聞、問合せ第22戦隊（黒潮部隊）と釧路基地		問合せ
	11月6日～8日	海上美術展J S U大会	長崎	展示
	11月	長崎新聞、長崎県の徴用漁船の実態と体験者		取材
	12月	遺族からの問合せ	松仁丸の遭難記録	問合せ
2014年 (21年度)	6月	横田、さいべりあ丸（日本海汽船）関連		問合せ
	6月6日～7日	東京海洋大学学園祭	第54回海王祭	展示
	6月1日	平和のための戦争展 in 横浜	横浜市	展示
	6月1日	焼津における平和のための戦争展	焼津市ふれあいホール	展示
	6月23日	理事会・総会港区立生涯学習センター		会議
	8月2日～4日	平和のための埼玉の戦争展	さいたま市	展示
	8月	杉田・第3一丸 問合せ		問合せ
	11月4日～7日	海上美術展J S U大会	東京	展示
2015年 (22年度)	1月	宮坂・崎戸丸 問合せ		問合せ
	5月	平和のための戦争展 in 横浜	横浜市	展示
	6月7日～8日	東京海洋大学学園祭	第55回海王祭	展示
	6月	焼津における平和のための戦争展	焼津市ふれあいホール	展示
	7月8日～19日	ピース愛知	名古屋市	展示
	8月1日～3日	平和のための埼玉の戦争展	さいたま市	展示
	8月	神奈川新聞、神奈川県内の徴用魚船・船員の数量記録・証言		取材
	8月	文化放送、福井謙二グッモニ、本会紹介、朝鮮戦没船員の数、戦争の悲惨さ		取材
	8月	戦没船員の消息（八王子市）さいべりあ丸乗組員の生死、高橋		問合せ
11月	淡路山丸、戦没経緯・生存者の証言	共同通信	問合せ	
2016年 (23年度)	6月4日～5日	東京海洋大学学園祭	第56回海王祭	展示
	6月	平和のための戦争展 in 横浜	横浜市	展示
	7月	焼津における平和のための戦争展	焼津市ふれあいホール	展示
	10月13日	資料整理・調査	J S S。（栗原・本望）	資料整理
	7月5日～15日	ピース愛知	名古屋市	展示
	7月30日～1日	平和のための埼玉の戦争展	さいたま市	展示
	11月8日～11日	海上美術展J S U大会	東京	展示
	12月	共同通信	比島慰霊訪問に関して	問合せ
	2月13日	理事会	I S O八重洲ビル 11名	会議
	2月24日	資料整理・調査	海員福祉センター	資料整理
2017年	5月26日～28日	東京海洋大学学園祭	海王祭	展示
	6月2日～4日	平和展のための戦争展 in 横浜	横浜市	展示
	6月29日	事務局会議・生涯学習センター	総会準備・会報発行、4名	会議

2号議案. 第24年度(2017年度)活動方針

会員の減少・高齢化・資金の枯渇、保有資料の老朽化が進み、活動力が低下する一方で、各地での展示会の要請が毎年一定程度来ている。

また集团的自衛権の行使を可能とする戦争法

案が成立し、船員予備自衛官制度が発足するなど、海の平和が脅かされ、船員が戦火に脅かされかねない状況を憂慮する声が年々高まっている。こうした状況に対処するため以下の活動を行う。

1. 会員名簿の整理
電話や郵便などにより、会員の生死を含めた現状を把握し、会員名簿の整理を行う。
2. 若手会員の拡大
会員の減少・高齢化に伴う活動力低下に対処するため、若手会員の勧誘・募集を行う。
3. 保有資料の分類整理、リストの作成
会の存続の有無にかかわらず、保有資料のDVD化や資料の分類整理、リストの作成を行う。
4. 展示用資料の整備・補充
各地の平和展などへの参加を継続するため老朽化した資料を整備・補充する。そのため海員組合の協力を得るべく協議する。
5. 各地の平和展・戦争展への参加
従来参加してきた海員組合全国大会・東京海洋大学学園祭・埼玉・横浜・愛知・焼津など各地の展示会への参加を継続する。三重への参加も検討する。
6. 問合せへの対応、ホームページの整備
引き続き問い合わせへの対応を事務局と会員が協力して行う。
ホームページ整備のため協力者を募る。
7. 会の在り方の検討
今後の「組織の在り方」「会の運営方法」について、会の新形態への移行・財政問題などを含め、全会員の意見を求め検討する。

第3号議案 決算報告書

2013年～2016年

科目	2013年度 (20年度)	2014年度 (21年度)	2015年度 (22年度)	2016年度 (23年度)	単位 円
前期繰越金	176,828	207,917	145,339	51,646	
カンパ収入	172,000	150,000	25,000	242,348	
事業収入	-	-	-	-	
雑収入	10,000	10,000	-	-	
収入合計	358,828	367,917	170,339	293,994	
通信費	52,462	33,592	30,379	32,535	
会議費	2,660	62,880	-	17,800	
印刷費	10,148	5,302	14,678	2,696	
文具消耗品費	3,021	8,479	2,128	8,197	
事業費	35,320	96,692	54,478	116,657	
旅費交通費	24,600	3,300	5,680	93,116	
雑費	22,700	12,333	11,350	8,659	
支出合計	150,911	222,578	118,693	279,660	
次年度繰越金	207,917	145,339	51,646	14,334	
繰越金内訳					
現金	69,787	58,941	46,782	9,480	
振替貯金	124,805	79,545	4,545	3,075	
郵便貯金	13,325	6,853	319	1,779	
繰越金合計	207,917	145,339	51,646	14,334	

(備考)

- 1) 旅費交通費は財政事情により、1人につき年間5,000円未満は支給しないこととしている。
- 2) カンパ振込用紙は、2015年度以降配布していない。
- 3) 2016年は、東京海洋大学の学園祭出展の際、展示資料の老朽化や破損が見られたので、一部有志に臨時にカンパを募り補修し必要品を補充した。


会計監査報告書

2017年7月14日


戦没船を記録する会

会長 新関 昌利 殿

監事

河内山 典隆 

監事

柿山 朗 

監査報告書

私たち監事は、2017年7月14日に2013年4月1日から平成2017年3月31日までの収支決算について監査を行いました。その結果について次の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

会計監査については、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類及びその付属明細書の正確性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 毎年度報告すべき決算が2013年度以降4年間の決算報告となりましたが、会計監査は2013年度以降2015年度を除いて各年度実施しています。会則第11条の定めでは定期総会は毎決算年度終了後2か月以内に開催することとなっており、2015年度の総会が開催されなかったことについて極めて問題があることを指摘します。

以上

第4号議案 会則の改正

提案 会則第5条(会員)を改正し、年会費を3000円とすることを決定。

理由 会の資金が底をつきさしあたりの出費にも影響するので、会費制を復活させ最小限の財政基盤を確立したい。そのため下記の通り改正することを提案する。

ただし実施は来年度(2018年度)からとし、会員諸氏に十分説明周知し、ご理解を賜うよう最大限努力する。

現行

第5条(会員) この会の目的に賛同する者は会員とし、会の事業に協力するものとする。会員はこの会の会議、会の事業に参加し、会の所の有する資料などを利用することができる。

改正案

第5条(会員) この会の目的に賛同する者を会員とする。年会費は3,000円とする。会員は会の事業に協力するものとし、この会の会議、会の事業に参加できる。また会の所有する資料などを利用することができる。

第5号議案 役員改選

定員は20名以内で任期は2年であり、今総会で役員を改選する。総会において理事と監事を選出した後、総会を中断して理事会を開き新理事の中から会長・副会長を互選する。

今回選出される役員の任期は2年とすることを確認し、選挙を行い次の通り選出された。

新役員			
会 長	新関	昌利	(郷土史研究家)
副会長	小林	三郎	(海の平和問題懇談会世話人代表)
同	吉田	敏長	(元海員組合)
理 事	飯島	雄二	(元海員組合)
同	上村	徹	(元船舶部員協会会長)
同	栗原	三郎	(事務局長 船員OB)
同	三宮	克己	(元LST乗組員)
同	篠原	国雄	(前事務局長)
同	竹中	正陽	(内航船員)
同	本望	隆司	(船員OB)
同	山口	喜春	(船員OB)
監 事	柿山	朗	(伊勢三河湾水先 区水先人会パイロット)
同	片岡	和夫	(元海員組合副組合長)

「ピースあいち」第2回展の報告

民間戦没船と船員の記録展

理事 篠原国雄 記

(本稿は2016年に寄稿いただいたもので、大変遅くなったことをお詫びいたします 事務局)

今年(2016年)も昨年と同じ名前で「民間戦没船と船員の記録展」が、主催ピースあいち、協賛戦没船を記録する会で7月5日から15日まで開催されました。展示内容も一部リニューアルされ、またイベントでは三宮克己さん(元府中市議)が、朝鮮戦争とLST船員の経験等を語りました。

昨年7月7日～18日の間、名古屋市名東区の戦争と平和の資料館「ピースあいち」で開催さ



LSTの体験を語る三宮さん

れた「民間戦没船と船員の記録展」は、半田市在住の戦没船を記録する会監事・柿山 朗さんが、前年から取り組んで来たもので、戦没船を記録する会主催、協力ピースあいちで、3階展示室全部を使って、記録する会所有のパネルを中心に、写真、図・表、アルフォト、大久保画伯の「戦時徴用船の最後」のコピーその他多数を展示、ピースあいち学芸員ら作成の船舶模型(1/700)も展示されました。また2階の視聴コーナーではDVD「海なお深く」が常時見られる体制でした。以下は今年の記録展報告の一部です。

ピースあいちでは90人ほどのスタッフが全員ボランティアで、事務局長や展示資料作成など特殊な役割を除いて、数名ずつ日替わりで受付や事務室、2階3階展示室の案内に当たる体制が組まれていました。

何処でもそうですが、その土地で初めての戦没船パネル展では、何時も多く問い合わせがありました。初日に半田から見えられた高年の男性は、愛知県戦没船員名簿をめくって、これが私のおじさんと知らせてくれました。明治26年生まれの船長さんで、留守家族のおばあさんの名前も勢つではなく変体仮名のいを使う「勢い」で、この夫婦の娘の子だと言っていました。戦時船舶史でその船の戦没状況も探し、コピーしてもらいました。後で受けの方が、コピーを貰ったと何かスッキリした顔で帰られたと報告してくれました。

4才の時親に連れられて高浜海員学校に会いに行った、叔父さんを探しに来た人もいました。名前しかわからないので、まず戦没船員名簿で探して、乗船していた船を探しました。この叔父さんは昭和4年8月生まれだから、会いに行ったのは昭和19年で、その年の夏頃には乗船し、20年3月仏印沖で戦没している。16才の誕生日を迎える事もなく、家族に詳細な報告もないままだったのだろう。70年目に漸く消息を得たと言う事になります。ほかにも、何時も可愛がってもらった神戸の叔父さんの船を探しに来た人もいました。

19年11月何日に五島列島付近で沈んだ3隻の船、というだけの材料で船を探しに来た人がありました。航空隊だと言うから戦没船員名簿に名前はありませぬ。年月順の戦没船名簿では、言われた日にその海域で沈んだ船はありませんでし

たが、翌日にその3隻の記録がありました。戦時船舶史で1隻ずつの航跡を見てみました。また戦時輸送船団史でも見つかりました。11隻で門司からマニラに向かう(モマ07船団)で、五島列島大瀬崎南西方75キロ付近で敵潜水艦に攻撃された1隻が船団を離脱佐世保に回航、海防艦や駆潜艇など6隻の護衛陣が制圧行動を行いながら経由地高雄を目指しました。

翌日未明翌日未明東シナ海の真ん中あたり(31.30N125.57E)で3隻の敵潜水艦の猛攻が始まり、船団の4隻が被雷し3隻が沈没、1隻は航行不能となり漂流、乗組員を他船に移乗させたが、その後敵潜の攻撃で沈没した。その中の鳴尾丸(4823総トン)は第18連絡艇隊、防空隊、南方経理部幹部候補生などが乗船、弾薬2万発を積載していたが、この攻撃で魚雷が命中し大爆発後、瞬時に沈没し、乗船部隊490名、船員72名、船砲隊101名の全員が船と運命を共にした。正に玉砕であった。と記録されていました。

このとき戦没した他の船には、防空隊という記録がないので、防空隊の兵隊さんが乗っていたのは「鳴尾丸」に確定できると言うことで、探しに来た人も納得して、この船で亡くなった人を知っている人がまだ沢山いるので皆さんに報告します、と関係する記録のコピーを持って帰って行かれました。

ご夫婦で来場されて、戦時船舶史を見ながら「お父さんは可哀想に、こんな小さな船で亡くなったんだ」とつぶやく、年配のご婦人がいました。大連汽船で船長をしていたお父さんは、定年退職していたのに戦争が激しくなって呼び出され、満州海運の1200トンの船に乗せられて戦没したと言う事でした。戦時船舶史はその船の戦没記録を僅か2行に記していました。子供の頃にお父さんの船を訪ねていった時は、いつも大きなきれいな



ピースあいち会場

な船だったのだろうと私は想像していました。

戦後70年たっても亡くなった身内の事は誰も皆、昨日の事のように記憶しているのです。その思い出に繋がるものを探すために、わざわざ来場された人が、多数いたのだと感じました。コピーを貰って行った人は10人以上もいたでしょうか。年配の方では亡くなった人の事話していて、声を詰まらせる人も度々いました。一緒に探していたものが見つかった時は、ああ良かったと小さな嬉しさを一緒に感じていました。

名古屋では、中山惇雄さんのマンションに泊めて貰って、大変お世話になりました。また、柿山さんのお母さんが鹿児島から来られていて、記録

展にも娘さんと来場いただき感謝しています。

また、戦没船を記録する会の古くからの会員の、相原一さんが名古屋市南区からご夫婦で来場されました。

11日のイベントには「語り部」として木村利三雄さんが神戸から、安藤敏顕さんが岡山から参加してくれました。その後DVD「海なお深く」が上映されました。

その後の懇親会にはピースあいちの皆さん、わざわざ参加された小林三郎さんと片岡和夫さんが静岡と東京から、また伊勢三河湾水先区水先人OBの中山さんを始め、現役の増島さん他の柿山さんの同僚が大勢参加してくれました。

2017年総会決定 次年度より会費制への移行にご理解を

戦没船を記録する会 会長 新関 昌利

本会の活動は会員諸氏の多大なご協力により、これまで戦没船員に関する資料の収集を行い、貴重な資料が多数集められました。戦没船に関する写真はアルフォトで資料館（海員組合関西地方支部）に展示されましたが、この他に戦没船員のデータや、戦没船の写真、絵画など約3百数十点に上る展示パネルが残されました。この展示パネルが各地の戦争展や平和展に参加する際に活用されています。参加する展示会は定期的参加が6か所に上りさらに拡大の方向です。この展示会には、会員や協力者の参加により説明員を分担していただいています。

このような活動を継続するためには、資料の整備、管理、展示の費用、その他関連費用がかかります。現在会員諸氏のカンパのみで運営しておりますが、このままでは財政の維持が困難であり、年会費3000円をご負担いただき財政的安定化を図らざるを得ない状況です。なにとぞご理解賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

「海なお深く」(復刻版)

会員の希望者にお送りします

この度、全日本海員組合は「海なお深く」の復刻版を発行、全国の中学校に配布することを決めました。

上巻はすでに発行されたものを復刻、下巻は上巻に収録されなかった、元船員の手記を収録し新たに発行、それにDVDの「海なお深く」をセットにしたものです。一般書店でも4,500円で販売されます。

今回、作成に協力関係にあった本会にも、数十冊寄贈を受けましたので、会員で希望される方に配布いたします。部数に制約がありますので、ご希望された順番にお送りします。送料として1,000円ご負担をお願いし、振替用紙を同封いたします。(事務局)

編集後記

8月2日定時総会を2年ぶりに開催し、60号以来途絶えていた会報も再スタートできました。皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

事務局体制については、総会でも指摘がありましたが、若返りと分散化を含め検討しているところであり、ご迷惑のかからない体制の確立を早急に整備するよう努めてまいります。

本会の運営内容などに関し、皆様の率直かつ積極的なご意見をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。
(事務局長 栗原)